

震災の経験・記憶を どう伝えていくのか

佐藤 翔輔

東北大学 災害科学国際研究所 准教授



はじめに

東日本大震災は、これまでの災害史上に類を見ないほど、「伝承」への関心が高まっている。東日本大震災の災害伝承に関する、行政としての動き、施設や活動団体の状況を紹介する。

行政としての東日本大震災の 災害伝承の動き

二〇一五年五月一〇日に東日本大震災復興構想会議にて策定された「復興構想七原則」において、その原則Ⅰで「失われたおびただし「いのち」への追悼と鎮魂こそ、私たち生き残った者にとって復興の起点である。この観点から、鎮魂の森やモニュメントを含め、大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教

訓を次世代に伝承し、国内外に発信する¹⁾と宣言されており、災害伝承という分野に重きが置かれていることが分かる。復興庁が二〇一八年十二月に示している「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針²⁾では、「復興の基本姿勢及び各分野における取組」として、「(3)復興の姿の発信、東日本大震災の記憶と教訓の後世への継承」が掲げられている。

政府では、国営追悼・祈念公園・施設の設置、デジタルアーカイブ、被災県では、あり方検討会議、同施設内での展示発信、研修事業、アーカイブ、被災市町村では、あり方検討会議、震災遺構・展示施設・祈念公園の設置・運営、モニュメント設置などの事業を行っている傾向がある(市町村によってあるもの・ないものがそれぞれあ

る)。以後では、政府、被災県、被災市町村ごとに、行政側が実施している東日本大震災の災害伝承に関する取り組みを見ていく。

まず、政府が行う東日本大震災の災害伝承では、岩手県・宮城県・福島県に置く国営追悼・祈念公園と国立国会図書館東日本大震災「ひなぎく」が代表的である。

国は、国営追悼・祈念施設が、東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信を目的に、高田松原津波復興祈念公園(岩手県陸前高田市高田松原地区)、石巻南浜津波復興祈念公園(宮城県石巻市南浜地区)、福島復興祈念公園(福島県双葉町、浪江町両竹地区)に設置されることが二〇一七年九

月一日に閣議決定された。高田松原津波復興祈念公園には、奇跡の一本松、旧道の駅「タピック45」などの複数の震災遺構があることや、展示施設としての岩手県東日本大震災津波伝承館、道の駅「高田松原」が含まれていることが特徴である。石巻南浜津波復興祈念公園では継続的な活動を協議する「石巻南浜津波復興祈念公園参加型運営協議会」が設置されていることが特徴的である。この協議会は、石巻南浜津波復興祈念公園で活動する市民活動団体と公園を管理する行政機関が連携・協働し、公園内での市民活動が円滑かつ適正に行われるように寄与することを目的としたものである。また、みやぎ東日本大震災津波伝承館も設置されている。福島復興祈念公園は、地震・津波災害だけでなく、東京電力

福島第一原発事故に関する内容も含めたアーカイブ施設である東日本大震災・原子力災害伝承館が設置されていることが特徴的である。これらの公園には、追悼や祈りを行う空間が共通して設けられている。

「ひなぎく」は、東日本大震災に関する記録等を包括的に検索できるポータルサイトである。東日本大震災の記録等を国全体として収集・保存・提供するために、様々な機関と連携・協力して国のアーカイブとしての役割を担っている。二〇二〇年七月現在で、約四四二万件、四七機関・五三アーカイブと連携しており、連携先のコンテンツを横断検索できる環境を提供している。ひなぎくは、国立国会図書館と総務省によって構築・公開されたが、二〇一二年度末に所管がすべて国立国会図書館になっている。

被災した県としても東日本大震災の災害伝承に取り組んでいる。岩手県では高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会、宮城県では東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議、福島県では東日本大震災

災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議など、基本的な計画を検討する場が設けられていた。また、各県は前述した祈念公園内における施設（岩手県東日本大震災津波伝承館、みやぎ東日本大震災津波伝承館、東日本大震災・原子力災害伝承館）にて展示を行っている。デジタルアーカイブについても、それぞれ、いわて震災津波アーカイブ、東日本大震災アーカイブ宮城、東日本大震災アーカイブFukushimaが構築されている。宮城県では、県内で東日本大震災の伝承に取り組む主体が、互いの活動を学び、つながりを広げ、今後必要とされる伝承活動を深めよう「宮城県震災伝承活動推進研修」を、福島県では、東日本大震災・原子力災害伝承館の開館に備えて、施設内で活動する震災の経験やふくしまの未来を語ることができる人材を育成する「震災を後世につなぐ語り部育成事業」などの研修事業も行われている。

被災市町村について、宮城県沿岸の基礎自治体を例にやや詳しくみていく。〈表1〉は、宮城県内の展示施設、震災遺構、祈念公園を市町ごとに示し

ている。市町では、これ以外に、災害伝承に関する検討会議、デジタルアーカイブ、モニUMENTなども存在することを注記する。すべての市町に展示

表1. 宮城県内の東日本大震災に関する展示施設・震災遺構・祈念公園

(かっこ内は準備中のもの、すみかっこ内は市町管理でないもの)

	展示施設	震災遺構	祈念公園
気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館		(復興祈念公園)
	旧岩井崎プロムナードセンター	旧気仙沼向洋高校	
南三陸町	(震災伝承施設(名称公募中))	【南三陸町防災対策庁舎】	南三陸町復興祈念公園
石巻市	-	旧門脇小学校	【石巻南浜津波復興祈念公園】
		旧大川小学校	
女川町	-	旧女川交番	-
東松島市	東松島市震災復興伝承館 ※旧野蒜駅舎	旧野蒜駅プラットフォーム	東松島市東日本大震災復興祈念公園
松島町	-	-	-
利府町	-	-	-
塩竈市	塩竈市津波防災センター	-	-
七ヶ浜町	-	-	-
多賀城市	-	-	-
仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館	震災遺構 旧荒浜小学校	-
	(中心部震災メモリアル拠点)	震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎	
名取市	名取市震災復興伝承館	公園内：遺構・伝承ゾーン、歩道橋等	名取市震災メモリアル公園
岩沼市	千年希望の丘交流センター	丘敷地内：住宅跡等	千年希望の丘
亘理町	-	-	-
山元町	-	震災遺構中浜小学校	-

施設、震災遺構、祈念公園が存在するわけではない。宮城県内では、気仙沼市から石巻市にかけての沿岸北部、仙台以南の沿岸南部に展示施設、震災遺

構、祈念公園が多いことが分かる。なお、震災遺構については、発災後すぐに注目され、かつ犠牲者が発生した震災遺構（災害遺構）は解体されやすく、その逆は震災遺構として保存されやすい傾向があることが分かっている³⁾。

東日本大震災の災害伝承に関する活動団体や施設

〈表2〉に語り部やガイドなどを行う東日本大震災の災害伝承に関する活動団体の例を、〈表3〉に展示施設や震災遺構として設置されている施設の例を示す。岩手県・宮城県・福島県に広く分布していることが分かる。〈表2〉に示している活動団体、〈表3〉に示している施設は、後述するネットワークに「登録」しているものだけでなく、二〇二一年二月現在に実際に存在している活動団体や施設はこれより多いのが実態であり、その全容は必ずしも把握しきれしていない。

二〇二〇年五月下旬～六月中旬にかけて、河北新報社と筆者は、東日本大震災の災害伝承に関する活動実態を明らかにするために、震災伝承を行う団体（語り部・ガイド）と震災伝承施設（展示施設・震災遺構）を対象にアン

ケート調査を実施した⁴⁾。アンケート調査は、四九の団体と三六箇所の施設を対象に行い、うち団体四三、施設三四箇所から回答を得た。

それぞれの利用者数の年推移を〈図〉に示す。語り部・ガイドを利用した人数は二〇一三年度の二六万人をピークに二〇一六年度から十六万～十八万人でほぼ横ばいになっている。施設は、震災発生から徐々に新設されるために、その度に全体の利用者が増加し、二〇一九年度は二三〇万人を超えている。団体や施設当たりの利用者を計算すると、語り部・ガイドは二〇一六年度以降、四〇〇〇～五〇〇〇人／団体、震災伝承施設は二〇一六年度以降、約四万人／施設で横ばいになっている。二〇一六年以降、東日本大震災の災害伝承に関する語り部・ガイドや震災伝承施設を目的に来訪した人がコンスタントに存在しており、被災地外からの高い関心が維持されていたことが分かる。

一方、二〇二〇年はCOVID-19の影響で二〇二〇年三月から来訪者が激減し、全国に緊急事態宣言が発令された四、五月は七割超の団体や施設が一時休止した。この時期は大型連休を利用

表2. 東日本大震災の災害伝承に関する団体（震災語り部・ガイド）の例

<p>岩手県</p> <ul style="list-style-type: none"> - NPO法人体験村・たのはたネットワーク - 新生やまだ商店街協同組合 - 一般社団法人大船渡津波伝承館 - 一般社団法人おらが大槌夢広場 - 久慈広域観光協議会 - 釜石観光ガイド会 - 岩泉観光ガイド協会 - 三陸鉄道「震災学習列車」 - 陸前高田市観光物産協会陸前高田観光ガイド部会 - 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 - 樺の里・大船渡ガイドの会 - 一般社団法人陸前高田被災地語り部きこ屋 - 一般社団法人マルゴト陸前高田 - 一般社団法人宮古観光文化交流協会 <p>福島県</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一般社団法人まちづくりなみえ - 一般社団法人ならはみらい - いわき語り部の会 - 相馬市観光協会 - 浪江まち物語つたえ隊 - 富岡町3・11を語る会 	<p>宮城県</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一般社団法人防災プロジェクト - 一般社団法人健太いのちの教室 - 日和幼稚園遺族有志の会 - 一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会 - TSUNAGU Teenager Tourguide of HigashiMatsushima - 一般社団法人ふらむ名取 - 石巻観光ボランティア協会 - 一般社団法人南三陸町観光協会 - 亘理町震災語り部の会「ワツタリ」 - 一般社団法人女川町観光協会 - 岩沼市千年希望の丘交流センター（連絡窓口） - 七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」 - 大川伝承の会 - 津波復興祈念資料館閉上の記憶 - 三陸復興観光コンシェルジュセンター - かだっぺ七ヶ浜 - 特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク - 一般社団法人南三陸研修センター - 奥松島観光ボランティアの会 - 一般社団法人雄勝花物語 - やまもと語りべの会 - 南三陸ホテル観洋 - 公益社団法人3.11みらいサポート
--	---

して被災地に足を運ぶ人が多いが、二カ月間の来訪者は語り部と遺構・施設を合わせて前年同期の六・八%にとどまった。宣言解除後は活動再開の動きはあったものの、秋の修学旅行シーズンはあつたものの、秋の修学旅行シーズンはあつたものの、秋の修学旅行シーズ

ンやG o T oトラベル期間以外の利用者が低迷した。各団体や施設はインターネットを通じて活動を行うなどの対応がなされた。

二つの東日本大震災の 災害伝承に関するネットワーク

前述したように、東日本大震災の被災地における災害伝承の活動団体や施設は、複数の県にまたがる広大なエリアに数多く点在している。また、その目的や内容は多様である。利用者の立場にたてば、個別・独立にある活動や施設は、分かりづらい側面も少なくはない。これらを連携しようと、民主導、民主導、それぞれに広域ネットワークが立ち上がっている。

民主導の震災伝承活動の広域ネットワークとして「3・11メモリアルネットワーク」がある⁵⁾。「3・11メモリアルネットワーク」は、東日本大震災に関する伝承活動を行う個人、団体と官学の広域連携組織として二〇一七年十二月に発足した。3・11メモリアルネットワークは、東日本大震災の経験や教訓の伝承に関わる個人・団体・拠点施設が地域や世代を超えてネットワークでつながり、過去に向き合い未来へ備える意識を全国、世界と共有しながら、「災害で命が失われない社会の実現」

「被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現」を目指して活動している。震災伝承、防災・減災活動の「連携」「企画」「育成」を柱として、シンポジウムや伝承力アップ講座などの具体的なプロジェクト推進によって三県を結ぶ民間連携体制が実施されている。二〇二一年二月現在で、個人会員四九六名・登録団体七〇団体からなる。石巻圏域のネットワーク（石巻ビジターズ産業ネットワーク・震災伝承部会⁶⁾）がもとの契機であり、圏域外へと連携の輪が広がっていった。筆者は、本ネットワークの外部有識者として、立ち上げから現在の運営に参加している。

民主導の広域ネットワークとしては、「震災伝承ネットワーク協議会」がある⁷⁾。二〇一八年度後半から、国土交通省東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市を協議会構成員とし、「岩手県、宮城県、福島県で整備する復興記念公園及び青森県、岩手県、福島県、仙台市において整備または整備が今後検討される震災伝承施設等を含め、震災伝承をより効

表3. 東日本大震災の災害伝承に関する施設（展示施設、震災遺構）の例

<p>岩手県</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大槌町役場 - 宮古市市民交流センター - 米沢商会 - いのちをつなぐ未来館（うのすまい・トモス） - 久慈地下水族科学館もぐらんぴあ - 東日本大震災津波伝承館～いわてTSUNAMIメモリアル～ - 津波遺構たろう観光ホテル - たろう潮里ステーション <p>福島県</p> <ul style="list-style-type: none"> - ふたばいんふお - 交流館・ならはCANvas - いわき・ら・ら・ミュウ - 東京電力廃炉資料館 - 相馬市伝承鎮魂祈念館 - 前田建設工業(株)東北支店 双葉町建物解体除染作業所 - 環境省特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま - 原発災害情報センター - 南相馬市消防・防災センター - 福島県環境創造センター 	<p>宮城県</p> <ul style="list-style-type: none"> - みやぎ生活協同組合 - 石巻市復興まちづくり情報交流館 - リアス・アーク美術館 - 絆の駅ニューゼ - 津波復興祈念資料館閉上の記憶 - 山元町防災拠点・山下地域交流センター - 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館 - 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 - 岩沼市千年希望の丘交流センター - 東松島市震災復興伝承館 - KIBOTCHA（キボッチャ） - せんだい3.11メモリアル交流館 - 震災遺構仙台市荒浜小学校 - 高野会館（南三陸ホテル観洋） - 公益社団法人3.11みらいサポート：つなぐ館 - 公益社団法人3.11みらいサポート：南浜つなぐ館
---	--

果的・効率的に行うためにネットワーク化に向けた連携を図り、交流促進や地域創生とあわせて、地域の防災力強

化に資すること」を目的として、震災伝承ネットワーク協議会が設立された。震災伝承ネットワーク協議会では、

特集 東日本大震災から一〇年

地域のレジリエンス形成と人づくり

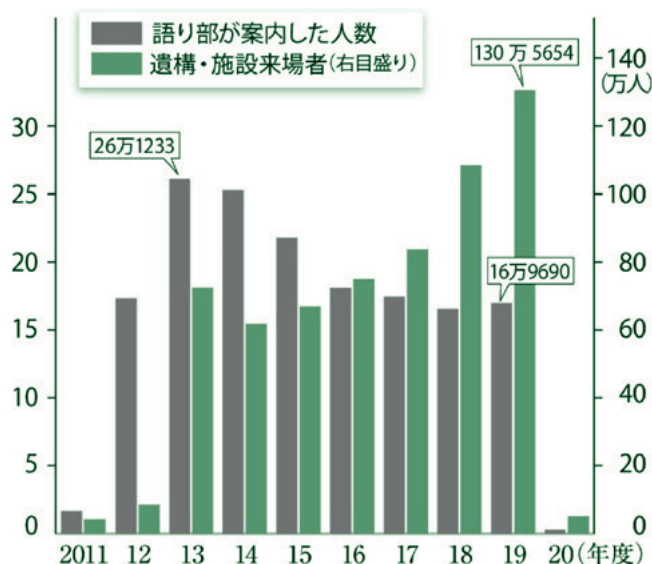


図. 岩手県・宮城県・福島県における語り部・ガイドと震災伝承施設の利用者の推移 (2020年度は2020年5月時点の情報)

このように複数の団体・拠点を連携しようとする動きは、二〇〇四年新潟県中越地震の被災地で展開されていた「中越メモリアル回廊」に着想を得ている部分が大いである。中越メモリアル回廊は、四つのメモリアル施設と三つのメモリアルパークで構成される。市町村を横断する領域にあり、それぞれ記憶継承、防災学習、交流などの機能・位置付けを分担する構成になっている。新潟県中越地震における震災

「震災伝承施設」の登録制度を設けており、二〇二〇年十月時点で二二四件が登録されている。なお、登録制度においては、第三分類、第二分類、第一分類があり、うち駐車場やガイドなどを設ける第三分類は四六件である。さらに、二〇一九年八月には、一般財団法人「3・11伝承ロード推進機構」が設置された⁸⁾。東日本大震災の教訓を学ぶため、震災伝承施設のネットワークを活用して、防災に関する様々な取り組みや事業を行う活動を目指している。東日本大震災の被災地には、被災

の実情や教訓を学ぶための遺構や展示施設が数多くあり、その施設を「震災伝承ネットワーク協議会」が「震災伝承施設」として登録し、マップや案内標識の整備などによりネットワーク化を図っている。その施設やネットワークを基盤にして、防災や減災、津波などに関する「学び」や「備え」に関する様々な取り組みや事業を同機構が実施している。筆者は、3・11伝承ロードのアドバイザー委員長として参加している。

このように複数の団体・拠点を連携しようとする動きは、二〇〇四年新潟県中越地震の被災地で展開されていた「中越メモリアル回廊」に着想を得ている部分が大いである。中越メモリアル回廊は、四つのメモリアル施設と三つのメモリアルパークで構成される。市町村を横断する領域にあり、それぞれ記憶継承、防災学習、交流などの機能・位置付けを分担する構成になっている。新潟県中越地震における震災

伝承のネットワークは計画段階で構成したトップダウン型である。現在、東日本大震災の被災地で関係づけられようとしているネットワークは、広域で様々な団体・拠点が立ち上がり運営され、積み上げられるというボトムアップ型であり、両者は同じ「ネットワーク」という名称であっても、その成り立ちが大きく異なることに留意されたい。東北におけるいずれのネットワーク活動も、今後、広域の連携によって、団体・個人・施設が得意分野を結集することで、効果的に継続的に伝承活動がなされることが期待される。

これからの災害伝承

本稿で紹介した「東日本大震災の災害伝承」は、ほんの一部でしかない。冒頭で述べたように、これまでの災害史上に類を見ないほど、高い関心や多くの取り組みがある。その熱量の反面、持続可能性についての危うさがあることは否定できない。東日本大震災の災害伝承に携わる方々は、その危うさを背負いながらも、経験・教訓を伝えるという強い意志、世界・全国からもらった支援に対する恩を返したいという思いを旨に活動されている。今後、起

こるかもしれない災害から、少しでも犠牲をおさえたり、効果的な災害対応が行える未来をつくるためにも、社会全体で災害伝承活動を見守る・支える・参加するというシステムが必要であるだろう。

〔引用文献〕

- 1) 東日本大震災復興構想会議・復興構想七原則、2011.5.
- 2) 復興庁「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針、2018.12.
- 3) 佐藤翔輔、今村文彦「東日本大震災の被災地における震災遺構の保存・解体の議論に関する分析」震災発生から五年の新聞記事データを用いて、日本災害復興学会論文集、No.9, pp. 11-19, 2016.7.
- 4) 河北新報、東日本大震災二〇年目語り部・伝承施設 河北新報社アンケート 世間の関心「低下」七割、2020.7.10
- 5) 3・11メモリアルネットワーク、<https://311mn.or.jp/>
- 6) 佐藤翔輔、中川政治、浅利満理子、今村文彦「災害伝承活動に関する先進事例からの学びと石巻地方における課題」震災学習協働事業体制づくり「コンフランスの取組み」、地域安全学会東日本大震災特別論文集、No.5, pp. 15-18, 2016.8.
- 7) 震災伝承ネットワーク協議会、<http://www.thr.milit.go.jp/sinsaidensy/ou/>
- 8) 一般社団法人3・11伝承ロード推進機構、<https://www.311denso.or.jp/>
- 9) 山崎麻里子、佐藤翔輔、山口壽道、松本勝男「中越メモリアル回廊におけるオープン六年目に見えた課題とその対応」、地域安全学会東日本大震災特別論文集、No.6, pp. 45-48, 2017.8.